

2016年（平成28年） 12月16日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

12/1～12/7のNYMEX・WTIIは、OPECの減産決議を好感して、49.77～51.79ドルの範囲で堅調に推移した。

12月8日は、10日のウイーンのOPEC本部における主要産油国会議を前に、協調減産実現への期待感や前日までの続落の反動買いなどから、3日振りに反発、50ドル台を回復した。1月限の終値は前日比1.07ドル高50.84ドルだった。

週末9日は、メキシコが15万BDの減産を表明するなど、10日の産油国会議で非OPEC産油国も協調減産で合意すると見方が広がり、続伸した。ただ、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグの稼働数増加(498基、前週比21基増)の発表で、上げ渋る場面も見られた。1月限の終値は前日比0.66ドル高の51.50ドルだった。

週明け12日は、OPECの120万BD減産に加え、10日の主要産油国会議で、ロシアが30万BDの減産をコミットするなど非OPECによる55.8万BDの協調減産が合意されたことから、早期の需給均衡回復への期待が高まり、大幅続伸、2015年7月14日以来1年5か月振りの高値を付けた。1月限の終値は前日比1.33ドル高の52.83ドルだった。

13日は、国際エネルギー機関(IEA)が石油市場月報で、産油国の協調減産が実施されれば来年上半年には供給過剰が解消される可能性があるなどと報告するなど、一段と需給均衡への期待が高まり、4営業日続伸した。1月限の終値は0.15ドル高の52.98ドルとなった。

14日は、米国連邦準備制度理事会(FRB)の金利0.25%引き上げの決定を受けたドル急騰による原油の割高感から売られ、5営業日振りに反落した。1月限は前日比1.94ドル安の51.04ドルで終了した。

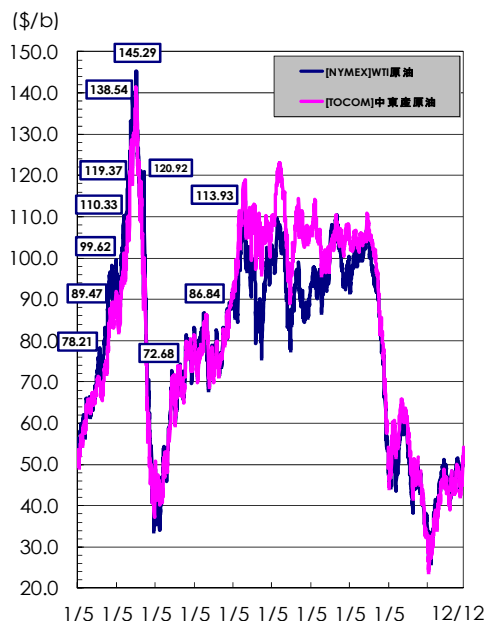
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、前週49.70～51.70ドルの範囲で高めに推移した。8日は50.10ドル、9日は51.20ドル、12日は54.00ドル、13日は52.80ドル、7日は52.70ドルで推移した。

為替は、前週113.58～114.18円の狭い範囲で円安気味に推移した。8日は113.77円、9日は114.27円、12日は115.47円、13日は115.04円、14日は115.18円で推移した。

主要元売会社の12月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.5～3.0円の値上がりとなった。原油価格は大きく値上がりし、為替レートは円安で、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、12月12日時点の小売価格は、ガソリンが1.7円値上りの127.7円、軽油が1.8円値上りの107.0円、灯油は3.5円値上りの71.7円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は9週連続の値上がりだった。この週(12月第2週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は全社2.0～4.0円の値上げになった。

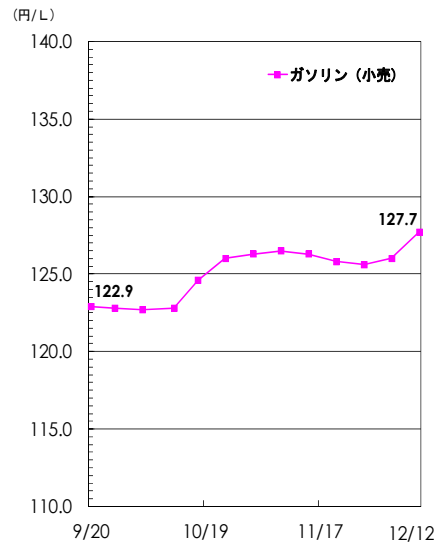
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/4～12/10	3,902 ▲124	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.5 ▲2.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	12/10	14,503 ▼-487	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/12	54.17 ▲3.38	▲ 19.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/12	52.83 ▲1.04	▲ 16.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月中旬	50.12 ▲2.73	▲ 2.62
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	32,868 ▲1,807	▼ -3,345
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.26 ▼-0.05	▲ 16.95
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/12	116.47 ▼-1.66	▲ 5.33



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/4 ~ 12/10	1,097 ▲ 35	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	983 ▲ 12	▲ -	
	輸出	"	24 ▼ -83	▼ -	
	在庫	12/10	1,708 ▲ 89	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/6 ~ 12/12	46.9 ▲ 1.9	▲ 5.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/6 ~ 12/12	48.2 ▲ 2.3	▲ 6.6
		(TOCOM/中部)	12/12	48.0 ▲ 1.0	▲ 8.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/12	127.7 ▲ 1.7	▲ 1.5	

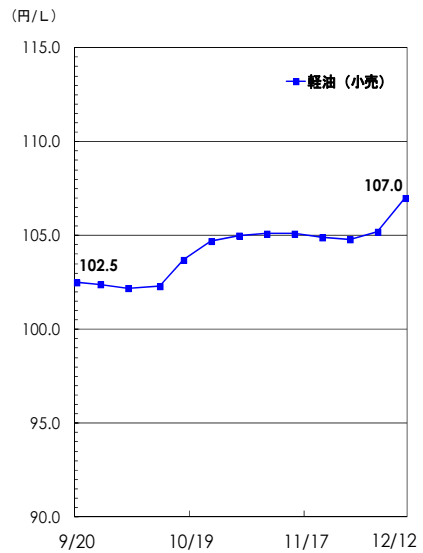
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

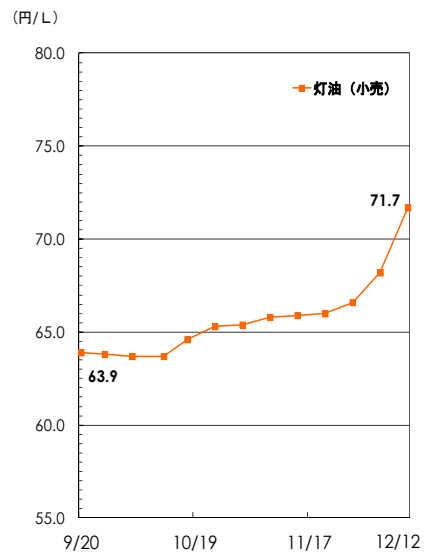
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/4 ~ 12/10	800 ▼ -12	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	598 ▼ -86	▼ -	
	輸出	"	68 ▼ -125	▲ -	
	在庫	12/10	1,615 ▲ 134	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/6 ~ 12/12	47.9 ▲ 2.5	▲ 0.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/6 ~ 12/12	46.0 ▲ 1.2	▲ 7.4
		(TOCOM/中部)	12/12	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/12	107.0 ▲ 1.8	▼ -1.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/4 ~ 12/10	433 ➡ 0	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	492 ▼ -68	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	12/10	2,173 ▼ -59	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/6 ~ 12/12	53.7 ▲ 3.3	▲ 12.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/6 ~ 12/12	52.9 ▲ 2.8	▲ 14.1
		(TOCOM/中部)	12/12	55.1 ▲ 4.1	▲ 18.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/12	71.7 ▲ 3.5	▼ -1.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

14日のNYMEX市場WTI原油は、同日午後のFRBの金利引き上げ(0.25%)決定を受けたドル高の急伸で、ドルで取引される原油先物の割高感から、5営業日振りに大きく反落した。また、前日夕刻の米石油協会(API)週報で、最近の米国原油在庫が予想に反し増加したことから、米国内の供給過剰懸念が広がり大きく値下がったが、この日午前の米エネルギー情報局(EIA)の週報では米国原油在庫が260万バレル減と、市場予想を大きく上回る取り崩しとなったため、値を戻す場面もあった。1月限の終値は前日比1.94ドル安の

51.04ドル、2月限の終値は前日比1.85ドル安の52.09ドルだった。

EIAによると12月12日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.8セント値上りの1ガロン2.236ドル(68.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.3セント値上りの2.493ドル(76.0円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、12月4日～10日に休止したトッパ一能力は、7.0万バレル/日と前週に比べて4.1万バレル減少。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は390.2万klと、前週に比べ12.4万kl増加。前年に対しては13.0万klの増加。トッパ一稼働率は92.5%と前週に対して2.9ポイントの増加、前年に対しては6.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.3%増、ジェット/2.1%増、灯油/0.0%、軽油/1.4%減、A重油/11.9%増、C重油/9.6%減。今週のC重油の輸入は6.9万kl(前週比2.4万kl増)。軽油の輸出は6.8万kl(前週比12.5万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、軽油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格の値上がりが続く、小売価格は2週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は98.3万kl(対前週1.2%増)と2週振りに前週比で増加、2週振りに前年比で増加となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット10.0万kl(対前週29.2%増)、灯油49.2万kl(対前週12.1%減)、軽油59.8万kl(対前週12.5%減)、A重油26.0

万kl(対前週2.1%減)、C重油35.3万kl(対前週23.6%増)。

(単位:千KL)

	今週 (12/4 ~ 12/10)	前週 (11/27 ~ 12/3)	前週比	
ガソリン	983	971	▲ 12	(1%)
ジェット燃料	100	78	▲ 22	(28%)
灯油	492	560	▼ -68	(-12%)
軽油	598	684	▼ -86	(-13%)
A重油	260	265	▼ -5	(-2%)
C重油	353	285	▲ 68	(24%)
合計	2,786	2,843	▼ -57	(-2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月10日時点の在庫はガソリン、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは170.8万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては0.3万kl多い。

灯油は217.3万kl、前週差5.9万kl減。前年に対しては73.7万kl少ない。

軽油は161.5万kl、前週差13.4万kl増。前年に対しては13.3万kl多い。

A重油は71.3万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては4.4万kl少ない。

C重油は183.8万kl、前週差3.9万kl減。前年に対しては31.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (12/10)	前週 (12/3)	前週比	
ガソリン	1,708	1,619	▲ 89	(5%)
ジェット燃料	918	949	▼ -31	(-3%)
灯油	2,173	2,232	▼ -59	(-3%)
軽油	1,615	1,481	▲ 134	(9%)
A重油	713	710	▲ 3	(0%)
C重油	1,838	1,877	▼ -39	(-2%)
合計	8,965	8,868	▲ 97	(1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月6日から12月12日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安で、原油コストは引き続き値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン100~101円台、軽油47~48円台、灯油53~54円台で堅調に推移した。海上スポット価格は、ガソリン99~101円台、軽油47~49円台、灯油53~56円台、先物価格はガソリン100~103円台、軽油46円台、灯油51~55円台へ値上がりした。元売の卸価格は1.5~3.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは12月15日、12月17日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種とも2.0円値上げする旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調を続けた。週間のガソリン販売量は90万kl台だったが、先週に引き続き前年を上回った。

12月第3週(12月15日~12月21日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(12月6日~12月12日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.9円、灯油は3.3円、軽油は2.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.6円、灯油は3.4円、軽油は1.4円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが2.3円、灯油が2.8円、軽油が1.2円の値上がりだった。原油価格は値上がり、為替は円安で、原油コストは値上がりとなり、製品スポット価格も寒波の影響を受けた灯油を筆頭に全般的に堅調を続けた。

12月第3週の大手元売の卸価格は、1.5~3.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (12/6 ~ 12/12)	前週 (11/29 ~ 12/5)	前週比
スポット価格	レギュラー	46.9	45.0	▲ 1.9
	灯油	53.7	50.4	▲ 3.3
	軽油	47.9	45.4	▲ 2.5
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (12/6 ~ 12/12)	前週 (11/29 ~ 12/5)	前週比
先物価格	レギュラー	48.2	45.9	▲ 2.3
	灯油	52.9	50.1	▲ 2.8
	軽油	46.0	44.8	▲ 1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/6~12/12実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.9	▲ 2.3	▲ 2.1
灯油	▲ 3.3	▲ 2.8	▲ 3.0
軽油	▲ 2.5	▲ 1.2	▲ 1.9
A重油	▲ 2.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月12日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.7円値上がりの127.7円、軽油が前週比1.8円値上がりの107.0円、灯油は前週比3.5円値上がりの71.7円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は9週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはない。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(123.2円(前週比2.7高)、次が千葉県(123.5円(同1.4円高)だった。最高値は長崎県の135.7円(同1.4円高)だった。都道府県別で、最も値上がりし

たのは前週比3.2円高の鳥取県(126.3円)、値下がり県はなく、横ばいが高知県(128.6円)だった。

原油コストは値上がりし、2週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は1.5円から3.0円の値上げだった。原油価格は大幅に値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりし、元売会社が卸価格を引き上げたため、次週のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		今週 (12/12)	前週 (12/5)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	127.7	126.0	▲ 1.7	08/8/4	185.1
	灯油	71.7	68.2	▲ 3.5	08/8/11	132.1
	軽油	107.0	105.2	▲ 1.8	08/8/4	167.4

(単位: 円/%)

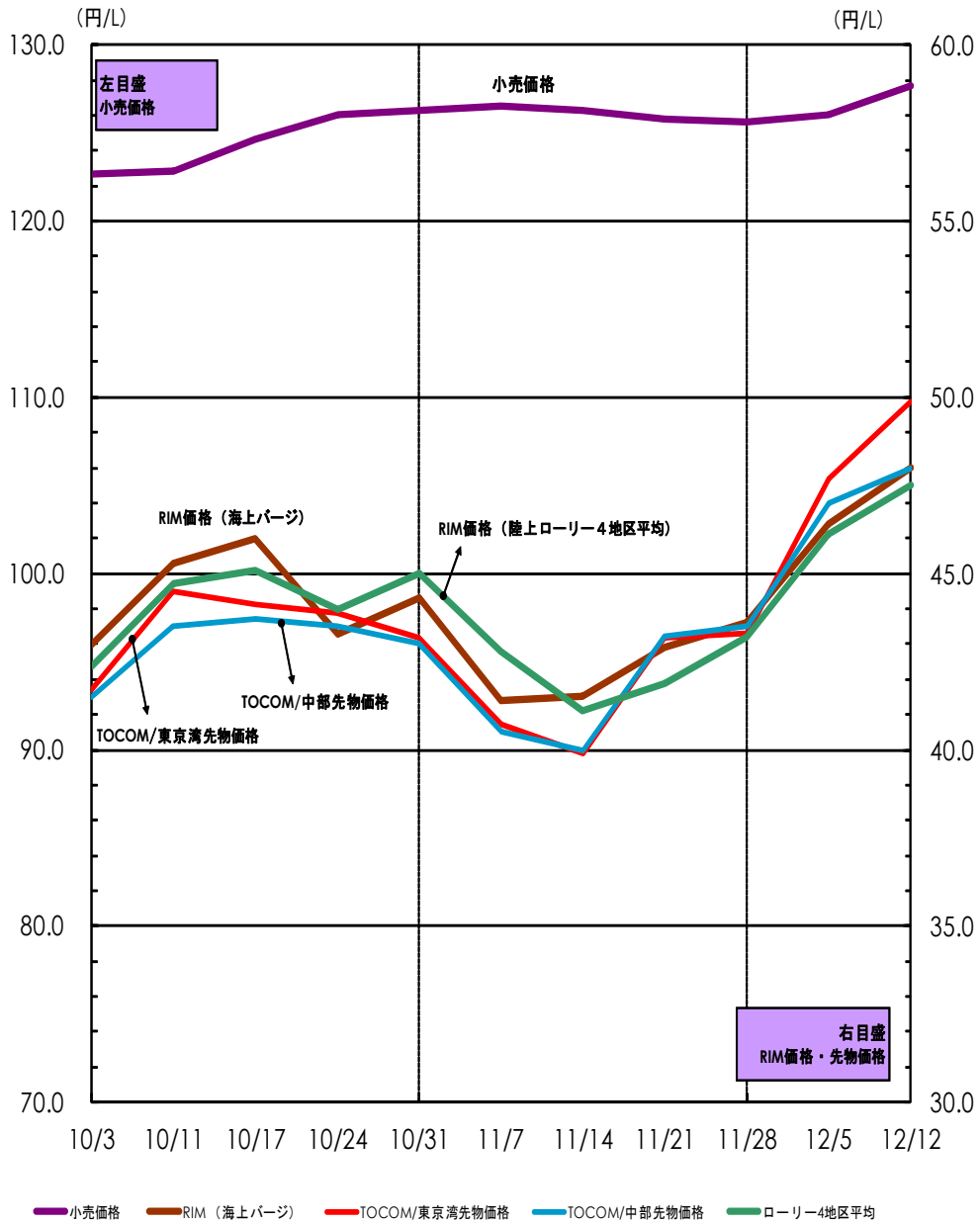
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/10/3 ~ 2016/12/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第37号)の公表は、12/22(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。